

兵庫ニューメディア推進協議会
東日本大震災調査研究

「東日本大震災における河北新報社の対応から、
災害についてのメディアのあり方を考える」

提 言

平成25年5月9日

第三部会

大震災の教訓を生かした地域の情報ネットワーク 「情報に強い人と社会」の創生

1. 災害に強い通信手段、ネットワーク
2. 地域から地域、地域から世界への情報発信
3. ソーシャルメディアなどITを使いこなせる人と地域づくり
4. 地域コミュニティの維持、形成への寄与
5. 新聞などメディアと市民の「協働」による新しい情報発信のスタイルづくり

[河北新報・佐藤氏の講演から]

第三部会メンバーコメント

- 公共情報コモンズとV-Lowマルチメディア放送の実証実験の成果から、コミュニティ放送の有効性やメディア連携による情報集約や迅速な情報整理への課題を指摘。[福田]
- マスメディアの姿勢、体質によるメディア連携の難しさを踏まえて、その難しさを超えるために「社会的議論」の場を作っていこうと提案。[脇浜]
- 実践的な研究活動から、ソーシャルメディアとマスメディアの連携の必然性、そのために具体的な動きとして、日常から進めておくべき要諦を提示。[和崎]

第三部会 提言

マスメディア、ソーシャルメディアを問わず、地域の多様なメディア連携を積極的に進めていくことが二つの大きな災害経験をさらに活かしていく道だ。

**世界で最もメディア連携の
進んだ自治体を目指そう！**